

■ 学校教育目標

- ① 高い進学目標を掲げ、一般入試に対応できる学力を身につけながら、個に応じた進路実現ができる学校を目指す。
- ② 学習活動と課外活動をともに重視した高校生活と、それを支える基本的な生活習慣と豊かな人間性の確立を目指す。  
(文武両道と生活指導の充実)
- ③ 地域との交流・連携事業を積極的に推進し、地域と協働する高校を目指す。

■ 長期的教育目標

- ① 豊かな人間性を養い、知・徳・体の調和のとれた成長と主体的に社会に参画できる生徒の育成を目指す。
- ② 自主・自発的な学習態度を育成し、学力の充実とともに高い進路目標の実現を目指す。
- ③ 特別活動を充実し、文武両道による心身の練磨を目指す。
- ④ 地域に開かれ、地域と連携しながら、地域から愛され信頼される学校を目指す。

■ 本年度の重点目標

A:十分 B:おおむねよい C:不十分

- ① 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的かつ協働的に価値を創造できる、自立した人間を育てる。(キャリア教育)

|    |   |     |  |
|----|---|-----|--|
| 評価 | B | I   | 授業・家庭学習を大切にさせ、基礎的な学力の充実・発展を図ることができたか。          |
|    | B | II  | 主体的に自己決定ができる力を養い、自己の進路目標の明確化と進路実現を図れるよう指導できたか。 |
|    | B | III | 公共心を育て、思いやりと責任のある行動を大切にさせることができたか。             |

- ② いじめや体罰のない安心安全な学校づくりに努める。

|    |   |     |   |
|----|---|-----|---|
| 評価 | B | I   | 個人面接指導やアンケートを活用し、継続的に生徒の状況を丁寧に把握することができたか。    |
|    | B | II  | 高い人権感覚を持ち、厳しくも支え合える同僚性を基に、互いを律し、体罰を防ぐことができたか。 |
|    | B | III | 問題が発生した場合は全職員で情報を共有し、早急な対応にあたることができたか。        |

- ③ 活力のある学校・特色ある学校づくりに努める。

|    |   |    |  |
|----|---|----|--|
| 評価 | B | I  | 生徒の実態を踏まえ、多様な学力や進路に対応できる教材や教授法を研究できたか。 |
|    | A | II | 生徒の自主活動を積極的に支援し、適切な助言・指導を行うことができたか。    |

- ④ 家庭・地域との連携を図るとともに開かれた学校づくりに努める。

|    |   |     |  |
|----|---|-----|--|
| 評価 | B | I   | 生徒が企画する地域連携事業を支援することができたか。               |
|    | A | II  | 実践した教育活動の報告を通して、学校評議員の学校関係者評価や外部評価を受けたか。 |
|    | B | III | 保護者や地域住民を対象とした公開授業を積極的に実施したか。            |
|    | A | IV  | 協力依頼のある地域連携事業をとおして地域との交流を深めることができたか。     |
|    | B | V   | 家庭との一層の連携とPTA活動の充実を図ることができたか。            |

① 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的に動ける自立した人間を育てる。(キャリア教育)

I 授業・家庭学習を大切にさせ、基礎的な学力の充実・発展を図ることができたか。

| 実施した具体的取り組み  | 成果と今後の課題・改善策・向上策   | 評価 |
|--|--|----|
| ○ 【3年】SHRで漢字・英単語の小テストを実施した。定期考査前に学習実態調査を実施した。各種検定の受検を勧めた。                              | 漢字と英単語では、基礎学力が向上した。生徒の考査前学習時間は2年次より増加した。                           | B  |
| ○ 【2年】SHRで英語、国語のドリルを実施した。定期考査前に学習実態調査を実施した。  | 各教科の基礎的な重要項目を確認させることができた。  | B  |
| ○ 【1年】スタディサプリを導入して、中学校の学習内容の復習を家庭で取り組めるようにした。また、年2回の到達度テストで、基礎学力の伸長を図った。               | 到達度テストの結果により、個別最適化された学習内容(項目)の提示ができた。                              | B  |
| ○ 【地公】電子黒板のスクリーンに映し出し、視覚的にとらえられるようにした。   | ICTの教材をさらに充実させる必要がある。  | B  |
| ○ 【理科】基礎的な内容を、書き込み式の教材を使用し、課題で繰り返し出題することで定着を図った。また、化学や生物などで自作のプリントを作成し、生徒のより確実な理解を図った。 | 多くの生徒が教材及び課題プリント学習に取り組んだ。大学入学共通テスト対策として、より一層考える力の基礎を定着させる方法を検討したい。 | B  |
| ○ 【英語】小テストやドリルを定期的実施した。スタディサプリやGoogle Classroomを活用し、家庭学習を充実させることができた。                  | 家庭学習を充実させることで、授業では対面でしかできない活動により重点をあてることができた。                      | B  |
| ○ 【進路指導】時事問題ワークシートを毎週発行し、SHRで取り組んでもらった。  | さらに充実させたい。   | A  |

II 主体的に自己決定ができる力を養い、自己の進路目標の明確化と進路実現を図れるよう指導できたか。

| 実施した具体的取り組み  | 成果と今後の課題・改善策・向上策  | 評価 |
|--|---|----|
| ○ 【3年】主に進路希望調査と三者面談、および2学期以降の個別指導により指導した。多目的教室で自学自習できる環境を整えた。小論文個別指導を実施した。 | ほとんどの生徒が3年夏の段階で進路志望が確定できた。放課後の自習は多いときで20名程度であった。小論文は希望者全員に個別指導できた。          | B  |
| ○ 【2年】年間2回ずつ、生徒との二者面談、保護者面談を行った。   | 多くの生徒については、目標とする進路が明確になりつつあるが、未だ進路希望が漠然としている生徒もおり、引き続き様々な刺激を与えつつ、考えさせていきたい。 | B  |
| ○ 【1年】進路学習と個人面談を通して個々の適性を考え、興味関心と合わせて進路目標を設定していくよう指導した。                    | 新聞を通して、より社会の事象に目を向けられるようにしたい。   | B  |
| ○ 【地公】進学補習については、生徒のニーズに応えるように行った。  | 共通テストの問題形式が変わったので、しっかりと対応していきたい。  | B  |
| ○ 【進路指導】進路室通信を毎週発行することにより、必要な情報を発信し、生徒が自ら自分の頭で自分の進路について考えるきっかけを作った。        | さらに充実させたい。  | A  |

III 公共心を育て、思いやりと責任のある行動を大切にさせることができたか。

| 実施した具体的取り組み   | 成果と今後の課題・改善策・向上策                               | 評価 |
|---|--|----|
| ○ 【3年】授業やHRでの生活面での指導を継続的に実施した。  | その場での適切な指導ができた。全体として落ち着いた学校生活を送ることができた。        | B  |
| ○ 【2年】SHR、LHR、探究の時間や清掃の時間を通して、皆で責任を分担し、各自が任された仕事をやり遂げることの重要性を、繰り返し指導した。 | 昨年度に比べ、全体を見て、自分で仕事を探して自発的に行動する生徒の姿が見られるようになった。 | B  |
| ○ 【1年】総合的な探究の時間にグループでのフィールドワークを行い、責任感や公共の場での振る舞い等について考える機会を設けた。         | 生徒会や部活動での役割について、一層考えていくよう指導する。                 | B  |

② いじめや体罰のない安心安全な学校づくりに努める。

I 個人面接指導やアンケートを活用し、継続的に生徒の状況を丁寧に把握することができたか。

| 実施した具体的取り組み   | 成果と今後の課題・改善策・向上策   | 評価 |
|---|--|----|
| ○ 【3年】普段の観察・面談や各種調査で生徒状況の把握に努めた。学年会で情報交換した。   | 生徒状況を把握することができた。   | B  |
| ○ 【2年】二者面談、三者面談、いじめアンケート等を実施し、情報の収集を心掛けた。   | 生徒の状況を把握することができた。  | B  |
| ○ 【1年】休校中はオンラインでSHRを継続した。また、個人面談やアンケートを活用して、生徒状況を把握するよう努めた。                             | 担任会や学年会で生徒の様子を共有することで、複数の教員からの生徒への声かけができた。                     | B  |
| ○ 【生活指導】担任による面接指導、全職員による立ち番指導、年2回のいじめアンケートにより、日頃の生徒の様子の把握に努めた。心配な生徒については、担任を中心として対応できた。 | 今後も様々な生徒に対応するため、アンテナを高くし、全職員間で情報を共有しながら、生徒の小さな変化も見逃さないよう対応したい。 | B  |
| ○ 【特別支援コーディネーター】アセスの実施  | 回収率を上げる必要がある。  | B  |

II 高い人権感覚を持ち、厳しくも支え合える同僚性を基に、互いを律し、体罰を防ぐことができたか。

| 実施した具体的取り組み  | 成果と今後の課題・改善策・向上策                        | 評価 |
|--|---|----|
| ○ 【3年】普段の観察・面談や各種調査で状況把握に努めた。学年会で情報交換した。   | 適切な指導ができた。                              | B  |
| ○ 【1年】毎週の学年会において情報共有に努め、生徒指導を一人を抱え込むことがないようにした。                                  | 個々の生徒の状況を指導に生かすことができた。                  | B  |
| ○ 【芸術】作品展示、発表を通じた相互鑑賞  | 他者の作品、発表の良い点を評価する姿勢が見られるので、継続していくことが必要。 | A  |
| ○ 【人権教育】・新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり、全校人権学習は実施できなかった。<br>・憲法学習については、各学年、クラスで取り組むことができた。 | 来年度の全校人権学習は実施したい。                       | B  |

III 問題が発生した場合は全職員で情報を共有し、早急な対応にあたることができたか。

| 実施した具体的取り組み   | 成果と今後の課題・改善策・向上策                | 評価 |
|---|---------------------------------|----|
| ○ 【3年】問題について学年全体で共有し、係・担任を中心に指導した。  | 適切な指導ができた。                      | B  |
| ○ 【生活指導】関係職員中心に事実関係を把握し、全職員で情報共有の上、生徒に対して適切な対応が取れた。全生徒に対しても、注意喚起をすることで問題発生の予防にもつながった。 | SNSの使用については、引き続き機会を設けて指導が必要である。 | B  |

③ 活力のある学校・特色ある学校づくりに努める。

I 生徒の実態を踏まえ、多様な学力や進路に対応できる教材や教授法を研究できたか。

| 実施した具体的取り組み |  | 成果と今後の課題・改善策・向上策                                      | 評価 |
|-------------|--|---|----|
| ○           | 【3年】夏季休業や放課後補習を希望者に開講した。校外模試は進路志望別に大学・看護医療・就職教養の3種類に分けて実施した。                             | 補習参加者の学習意欲は高まった。進路志望別に分けた模試は、進路志望が確定していた生徒には有効だった。    | B  |
| ○           | 【2年】冬期休業や考査前の放課後に、希望者補習を実施した。  | 生徒の学習への積極的な取り組みを引き出すことができた。                           | B  |
| ○           | 【1年】テスト前の向陽館の実施や、各種検定の積極的な受験を奨励した。   | 目の前の目標を一つひとつクリアしていく姿勢を身につけられるように指導したい。                | B  |
| ○           | 【地公】ICTを活用し、生徒が前向きに学習できるよう展開させた。   | ビジュアル教材の充実と、授業での社会科教室使用に努めたい。                         | B  |
| ○           | 【理科】3年生では進学補習、2年生では夏季休業中や定期テスト前の向陽館土曜講座補習を実施し、授業では化学や生物などプリント教材を作成して、多様な進路に対応できるように努力した。 | 基礎的な内容の定着がある程度見られた。考察力や発想力を向上させるために演習量を増やすなどの対応を検討した。 | B  |
| ○           | 【英語】補習や個別指導で、生徒の学力に合わせた指導を行った。   | 学力差が大きい生徒への効果的な指導方法についてさらに研究が必要である。                   | B  |
| ○           | 【進路指導】個別指導のための小論文問題集を教員に紹介したり、過去問を調べ提供するなどした。  | 同様の取り組みを続けたい。   | B  |

II 生徒の自主活動を積極的に支援し、適切な助言・指導を行うことができたか。

| 実施した具体的取り組み |   | 成果と今後の課題・改善策・向上策   | 評価 |
|-------------|---|--|----|
| ○           | 【3年】最上級生としての取り組みを指導・助言した。   | 新型コロナウイルス感染症流行のため多くの生徒会行事が縮小・中止を余儀なくされたが、最上級生として生徒会活動に先頭に立って取り組めた。 | B  |
| ○           | 【2年】HR等で生徒自治会への積極的な参加を呼びかけた。  | 生徒会活動においては、コロナウイルスの蔓延により、様々な影響が出て来ることが予想される。適切な助言を心掛けたい。           | B  |
| ○           | 【1年】部活動や生徒会活動への参加を呼びかけた。  | 生徒会本部役員を志望する生徒が多かった。   | B  |
| ○           | 【生徒会】・向陽祭代替行事実施にあたりコロナの現状を踏まえつつ適切な助言指導を行い、「向陽Fes2020」を無事運営することが出来た。<br>・冬季ウインドブレーカー・パンツ着用については、試行期間を設けるなど段階を踏んで進めていくよう助言を行った。 | コロナについては来年度も厳しい状況が続くと思われるが、ていねいに指導助言を行っていきたい                       | A  |
| ○           | 【図書館】Book projectとBook dayを通して、積極的に本を借りるように生徒中心に呼びかけた。  | Book newsを積極的に発行し、内容も生徒たち自身で考えるなど自主的に活動できた。                        | A  |

④ 家庭・地域との連携を図るとともに開かれた学校づくりに努める。

I 生徒が企画する地域連携事業を支援することができたか。

| 実施した具体的取り組み   | 成果と今後の課題・改善策・向上策   | 評価 |
|---|--|----|
| ○ 【生徒会】コロナの影響で「向陽生と遊んで楽しもう」は実施できなかったが、役員生徒に行事の意義をして会場下見及び企画書制作を行い、来年度へ引き継ぐことが出来るよう支援した。 | 例年行っていた内容を知っている生徒がいなくなってしまうが、役員生徒に行事の意義を理解させた上でより良い内容のものを作っていききたい。 | B  |

II 実践した教育活動の報告を通して、学校評議員の学校関係者評価や外部評価を受けたか。

| 実施した具体的取り組み  | 成果と今後の課題・改善策・向上策             | 評価 |
|--|------------------------------|----|
| ○ 【教務】学校評議員会等での各事業の報告、および、各事業で新聞・LCV等のメディアに取材・報道の依頼を行った。 | 報告や各メディアの報道で活動を広く知ってもらえたと思う。 | A  |

III 保護者や地域住民を対象とした公開授業を積極的に実施したか。

| 実施した具体的取り組み                              | 成果と今後の課題・改善策・向上策  | 評価 |
|--|---|----|
| ○ 【教務】8月の中学生体験入学の日程に合わせ、地域住民へも授業公開を実施した。 | 地域住民の参観はなかったが、多くの中学生・保護者の方に参観してもらい、向陽高校の教育活動を理解してもらえる機会となった。  | B  |
| ○ 【教務】10月に、地域住民への授業公開を設定した。              | 新型コロナウイルス感染症拡大の心配から、大規模な広報活動を控えたこともあり、地域住民の参観はなかった。次年度は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながらではあるが、授業公開を設定して広報していきたい。 | C  |

IV 協力依頼のある地域連携事業をとおして地域との交流を深めることができたか。

| 実施した具体的取り組み  | 成果と今後の課題・改善策・向上策   | 評価 |
|--|--|----|
| ○ 【芸術】町の活動への協力、町の成人式激励書道、町の3箇所保育所での園児との交流  | 本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったが、継続していきたい。                            | B  |
| ○ 【教務】向陽坂通信の発行を昨年度より増やし、地元(諏訪地区)の中学校へ情報を発信した。                                    | 中学生の進路選択の参考にしてもらえたと思う。   | A  |
| ○ 【教頭/教務】本校のHPにWEB日記を開設し、日々の生徒の様子を発信。  | 通信や公開授業だけでは伝えることができない日々の活動を紹介できたと思う。                             | A  |
| ○ 【生徒会】コロナの影響で多くの事業が中止となってしまったが、ガーデンプロジェクトには生徒会庶務が積極的にかかわり、参加して下さった地域の方々と交流を深めた。 | 地域の方々から支えられていることを常に意識し、感謝の気持ちを持ってしっかりとした態度・言動をしていくことを心掛けていけるとよい。 | A  |

V 家庭との一層の連携とPTA活動の充実を図ることができたか。

| 実施した具体的取り組み   | 成果と今後の課題・改善策・向上策   | 評価 |
|---|--|----|
| ○ 【3年】学年通信などを発行したり、情報配信システムを活用して保護者への情報提供を実施した。             | 必要な情報を家庭に伝えることができた。  | B  |
| ○ 【2年】保護者面談を年2回実施し、修学旅行に関するアンケートを実施、また学年通信を発行した。            | 保護者面談により生徒の進路を家庭と共に考え、修学旅行の中止、代替旅行の実施に関しては、アンケートにより家庭の意向も聞きながら計画した。              | B  |
| ○ 【PTA】新型コロナウイルス感染症流行のため、計画した行事の多くを実施できなかったが、可能な限りの活動を実施した。 | 役員会・PTA会報の発行など実施可能な活動はできた。次年度は例年通りの活動を計画しながら、新型コロナウイルス感染症流行の中でできる活動を企画・実施していきたい。 | B  |